

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所して2年目を迎え、地域の方々へ知名度がついてきました。毎日経営方針書の唱和。入居者様から意見を頂くとその日に解決できるよう心掛けている。	法人の経営方針書の中にある経営理念を毎朝朝礼時に唱和し理念の共有に努めると共に家族に対しては利用契約時に理念について説明している。ホーム独自のスローガンは玄関への掲示と合わせ、ホーム便り「岡田松岡だより」で紹介し家族来訪時にも話している。職員には感謝と笑顔を忘れないように徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度地域の行事に参加している。体操や歌などが行われ、終了後にはお茶会、その際に地域の方とお話し交流を深めている。	区費を納め区の一員として活動している。回覧板で行事内容を把握し積極的に参加している。区の総会や2ヶ月に1回の会合にも出席し「行事決め」、「お祭りの打ち合わせ」等にも関わっている。利用者もお祭りに出掛け、出店やくじ引き、子供の発表会等を楽しんでいる。月1回行われる公民館行事にも参加し交流を深め、区の敬老会ではプレゼントも頂いている。市社会福祉協議会紹介のボランティアの来訪が定期的であり「マジック」、「歌」、「踊り」等の披露があり交流している。また、2ヶ月に1回アニマルセラピーも行われ利用者も楽しみにしている。高校生、大学生の職場体験も引き続き行われ、食事作り、傾聴等で利用者とのひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大きな課題となるが、認知症があっても一般の方とは変わらず生活をしている姿は見ている。(夏祭り等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活や入居者様の報告を行うことで、地域住民の意見やアドバイスをお聞きしサービスに活かしている。ご近所との付き合い方など。	2ヶ月に1回、町会長、公民館長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、地域の契約薬局責任者、他法人管理者等が出席し実施している。利用者の現状報告、行事報告などを行い、出席者全員から個々にアドバイスや意見をいただき、地域との関係も深まりサービスの向上にも繋がられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	SMSやメールでの情報交換を行っている。また時には事業所へ外向き報告を行っている。	市介護保険課とはSNS、メールにて連絡を取り合っている。地域包括支援センター主催の地域ケアシステムの勉強会にも参加している。民生児童委員との繋がりが多く、様々な事柄に役立てている。介護相談員の来訪が未だないので引き続き依頼を続けていきたいと考えている。市内のグループホーム連絡協議会に参加し他施設と意見交換や交流を行っている。介護更新の認定調査は調査員が来訪しホームにて実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はなく、エフビーグループの理念であるため実践している。日中は施錠せず、夜間には時間を決めて施錠を行っている。	身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は開錠されセンサーで知らせようになっている。離脱傾向の強い利用者もいるが開設2年を迎え離脱の理由を探ることに時間を割いて進めている。家に帰りたいのか、トイレに行きたいのか話を聞き、利用者の側に立ち時間を掛けて話し合い、外へ出たければ自由に出ていただき見守りで後をつけ納得し自分の意思でホームに帰るよう勧め利用者との信頼関係を深めている。転倒防止のため家族と相談しセンサーマットを使用している方がいるが、拘束の研修会、話し合いを重ね認識を高め、使わないで済むように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等参加する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前説明を行っている。玄関に意見箱を設置し不安や疑問点を伺っている。変更があった場合は必ずお手紙を送付し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1度外部評価を行い、ご意見を伺いサービスの質の向上に反映させている。月に一度感謝のお手紙をお送りしている。また玄関にご意見箱を設置しいつでも気軽に対応できるよう努めている。	家族の来訪は週1回～月1回が殆どで年2回位の方もいる。来訪の際には居室担当を中心に日頃の様子を話し家族の希望も聞くようにしている。家族会も年3回行われ、状況報告や食事会、ボランティアと家族によるアトラクション披露等で交流している。ホーム便りで利用者の日々の様子も届けられ家族から喜ばれている。誕生日会には担当者より写真入りメッセージカードとプレゼントが贈られケーキ等でお祝いし、希望によっては外食に出掛けることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に3回会議を設け現場の意見を収集、先ずはやってみる、色々な方法を取り入れて実践している。	職員会議を月1回行い、本社よりの伝達事項の徹底、業務改善等の検討を行い、また、月2回ユニット会議を実施し利用者に関することを中心に話し合っている。業務改善等については事前に議題を提案し意見を出し易い雰囲気作り心掛けており、ユニットリーダーが個々の意見を集約し実践に取り組んでいる。人事考課制度があり、目標管理シートに沿って年2回自己評価を行い、ホーム長、ユニットリーダーによる個人面談も実施しホームの運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業はしないという労務管理を徹底して行っている。月に一度の内部研修には、有名な方の講演会などを聞いて頂きやりがいへ繋がるよう努めている。年末年始手当や新聞購読手当、環境整備手当などは支給		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を積極的に呼びかけ、きやりあネットを通じて参加の取り組みを行っている。また個々に研修を見つけ自ら参加を求める職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度近隣の事業所へ出向き研修へ参加している。また、地域包括支援センター職員との連携を図り情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っていることがあれば、即実行を心掛けている。1日の中で時間ゆっくりお茶を飲みながらお話できる機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた際、ご家族へ積極的にお話をし不安と思われることをお聞きし、チーム間で改善統一したケアを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に細かく説明することで理解や信頼を得ている。本人と家族が必要としていることが異なる場合が多いため、一人ひとりに合わせた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務中心となるが、それを見せないことを心掛けている。玄関の出入りは自由に、また台所へ入ることも自由としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	信頼関係を築き続けていくために、日常生活の様子や写真など送っている。またご家族と連絡を取り合いホームに遠慮なく来ていただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内にポストを設置、ご自分のお手紙が届いた場合には声かけを行っている。ご家族へはホームへ誰が訪ねてきてもいいように事前に情報をお聞きしている。	家族より情報を頂いた友人や知人、兄弟の来訪があり居室で寛いでいただいたり、リビングで他の利用者と話し楽しんでいただいている。手紙を頂き返事を書く方や希望により家族のお手伝いで年賀状を出される方もいる。職員同伴で馴染みの店に買い物に行かれる利用者もいて関係が継続するようお手伝いしている。時として利用者間でトラブルになる時もあるが職員が上手に中に入り良い関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を大切にしている。一人ひとりの性格を見極め、対話が困難な方には職員が間に入りお話する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切に、できることがあれば相談・支援し協力に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動・発言に気を配りご本人が今、何を求めているかを想像しお伝えし確認している。表情なども観察している。	数名の利用者以外は自分で意思表示が出来る状況である。根本的に何を希望しているのか時間を掛け話を聞き表情も観察し、利用者本位の支援に取り組むようにしている。自己決定については押し付けるのではなく、入浴後の服装選び等、時間を掛け自分で選んでいたようにしている。日々の状況を介護記録に残し申し送り時に話し合ったり、家族来訪時に見て頂き、お聞きした生活歴と合わせ希望に沿った支援に繋げている。遠慮がちな方がいるが、特に心配りし居室において1対1で話を伺うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、事前面談を設けている。本人や家族と密に話し合う時間を作り情報を収集、職員間で共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝体調をお聞きし、顔色などを観察、血圧・熱測定、記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの場でお話する機会を設け、望む暮らしを聞きだし課題のヒントにあてている。	職員は1～2名の利用者を担当し、利用者本人の日々の状況、課題の把握を始め家族からの意見なども纏めユニット会議や全体会議に臨み、2～3名の利用者について全職員でモニタリングを行い変化がなければ3ヶ月間継続し見直しは6ヶ月で行っている。状況に変化が見られた時には随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者様の状態の変化に気づき記録へおとす、日々の申し送りや会議などで職員が意見を出し合い共有し改善、見直しを担当職員が行い更新をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所のみにとどまらず、社会資源を大いに活用している。近隣の薬局・スーパーなど。また外出機会を多く設けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で暮らす者として、地区の行事には進んで参加をし活用している。地域の一員として見て頂きここに暮らす者として励みとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度往診へ来てくださり、日々の生活の中で身体や心の相談をしアドバイスを頂いている。何かあった場合は24時間連絡が取れる体制をとっている。	多くの利用者は以前からのかかりつけ医の月1回の往診で対応している。数名の方はホーム協力医の受診で職員がお連れしている。介護スタッフの中に看護師が2名おり24時間対応で健康管理を行い、個人ファイルには「救急隊への情報提供カード」が常に綴じられており、緊急の際に備えている。薬は契約薬局の責任者が運営推進会議のメンバーでもあり、間違いのないよう連携管理されている。歯科は協力医の受診から往診に変わる予定である。その他専門科目の受診は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師3名体制での取り組み、介護職と一緒に働く中で、身体状況の変化に気づき介護員と共有し行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者・リーダーを中心に情報収集、意見交換を病院と密に行い、退院後安心してホームでの生活が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての同意書を頂いている。ご家族の意向により受診から24時間対応の往診の先生に切り替えたことで安心感を得ている。	終末期の指針により利用契約時に説明し同意書を頂き、状況の変化に合わせて改めて意向を確認し家族の希望に沿った支援を行うようにしている。開設以来看取り経験はまだないが家族の意向を第一に捉え、その状況に直面し希望された場合には看取り支援に取り組む姿勢である。ホーム長と看護師が定期的に職員勉強会を開き心構えについて意識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のシュミレーションを行い定期的に勉強会を行っている。現在看護師3名がいることでの安心、また協力医との連携体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っているが、火災のみがほとんどであり、今後の課題でもある。当施設の建物は強度が良いことから、地域の方の避難所として利用できるよう市に働きかけている。(備蓄品など)	年2回、消防署員が参加し防災訓練を行っている。避難訓練では日中に、夜間想定として2名の職員で5～6名の利用者を外の駐車場まで避難させる訓練を行い、消火訓練は職員の意識を高めるためシュミレーション訓練を実施した。合わせ消防署への通報訓練と機器の点検を実施した。緊急連絡網の確認は携帯メールにて行い、約1時間で全員に徹底出来たがスピードアップを図るべくLINEに切り替える予定である。「水」、「非常食」、「介護用品」などの備蓄は1週間分準備されている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し尊敬の念を持ち、言葉使いや口調に配慮、時には慣れ親しんだ方言を使うことでなじみの関係を作っている。一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。	言葉遣いには特に気配りしている。尊敬の気持ちを忘れないようにゆっくり話すように心掛け希望により方言も交えながら信頼し合える関係を作るよう努力している。訪問調査時も利用者や職員お互いの会話がゆっくりで、また、にこやかで柔らかな雰囲気を感じられた。年3回接遇の研修も行い振り返りの時を持っている。呼び方は苗字を「さん」付けでお呼びし希望により名前でも呼んでる方もいる。プライバシー保護から入浴は必ず1名での入浴に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から入居者様が今思っていることや希望を聞き出せるよう心掛けている。アクティビティには一人一人声かけをし、自己選択できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間は決まっているが、起床については本人のペースに合わせている。集団レクを好まない方には意思を尊重し無理なく参加しやすい環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時や入浴前には服を選んで頂いています。ご自分でできる方は着替え整容されています。また夏祭りにはお化粧をされ髪を結って参加されました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備に野菜を切ったり、味付けや盛り付けを職員と一緒にしている。嫌いな食べ物があった場合、別の食材で提供している。片付けは入居者様の習慣となり、毎日当番制で行っている。	1名を除いては自力で食事が出来る状況である。献立と食材は配食サービス会社のものを使っている。お手伝いは日替わりの当番制になっていて、各利用者も役割として積極的に参加している。当番表はキッチンに見える所に掲示してある。お正月、ひな祭り、お盆等の社会的行事には配食会社より特別食が提供される。夏祭り等、年4回のホーム行事についてはホームで特別食を調理している。敬老会には食材を購入し、松花堂弁当を全員で作って楽しんでいる。誕生日にはケーキでお祝いしたり希望のものを食べに出掛け、楽しい1日を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材委託業者と提携してあるため、毎日のメニュー、カロリーが決まっております。またAM・PMお茶の時間を設け好みに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。部分義歯の方には自歯専用の1本ブラシや歯間ブラシを使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後に定期的な声かけ、誘導を行うことで、失禁を減らす取り組みをしている。また、パッド類を使用している方は尿量を測定し、より適正なものに変更することで、過剰に使うことのないように工夫している。	全介助の方が数名おり複数回使用可能な防水布パンツを使用し費用の削減に努めている。その他の方は自力で布パンツとリハビリパンツ使用という状況である。食事とお茶の前後に5回定時の声掛けを行いパターンを掴み排泄表を作成し、タイムリーな支援に取り組んでいる。スムーズな排便促進を図るため氷水も交えて1日に1リットルの水の摂取に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際はコップ2杯、AM・PMのお茶の機会を設けている。飲まれない方にはハチミツを入れて飲んで頂いている。ほぼ毎日の体操や散歩を自由に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴ができる環境を整えている。気分がのらない方は無理せず、浴室にラジカセを用いて気分よく入浴して頂ける工夫をしている。	見守りで自立の方が若干名いるが、他の方は職員二人での介助も含め何らかの介助が必要である。基本的に週2回以上の入浴を行っている。拒否される方も数名いるが声の掛け方を工夫したり、ラジカセで音楽を流し気分を変え入浴にお誘いしている。夏場はホームの畑作業や草取りで汗をかくのでシャワーで汗を流している。誕生日に職員と近くの浅間温泉に出掛けたり、男性職員が温泉好きな利用者を連れて美ヶ原温泉に出掛け楽しんでいる。ゆず湯や菖蒲湯、リンゴ湯等で季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明を暗くして休まれる方には、足元にセンサーライトを設置、眠りを妨げないように、また安全面も怠らないような工夫をしている。寝つきが悪い方には職員が寄り添い、人がいることで安心して頂けるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の訴えや状態を把握しお薬を必要としているか、ご本人に合っているのかを読み取り看護師、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみをお聞きし、食事に活かしている。趣味を生かし買い物の機会を設けている。家事全般を分担し入居者様自ら行っていただけるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じて頂ける外出を大切にしている。ご本人の希望を把握しいつもと違った場所での食事等を楽しむ機会を設けている。	外出時車イス使用の方が三分の一ほどおり、歩行器、杖歩行の方もいる。冬場は職員付き添いで1名ずつ近くのゴミステーションまで毎日交代で出掛け、希望により日用品の買い出しにも出掛けている。季節が良くなってきたらホームの前のゴミ拾いをその都度行い、近隣のリンゴ畑を見ながら散歩も楽しんでいる。また、年間計画の中で花見、紅葉狩り、季節の花の見学、ブドウ狩り等に出掛け、更に、飛行機を見に松本空港にドライブに出掛けたり、市内の名所に随時ドライブに出掛け外食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣へ買い物へ行く機会を設けている。また外食をした際、預かり金をお渡しし、自ら支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族と相談しかけて良い時間帯を設けて電話をして頂いている。手紙は今後の課題だが、年賀状を出したい方には購入し書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様同士でゆったり過ごせるよう、リビングや廊下へソファを設置し心地よい空間作りに努めている。部屋の温度や湿度にも気を配り加湿器を設置。	玄関を入り下駄箱を見ると利用者の外出用の靴が名札と共に置かれ外出している様子が窺える。広々とした廊下の数ヶ所にはソファが置かれ利用者同士話をし寛いでいるところを拝見した。壁には数多くの絵画が飾られ落ち着いた雰囲気を出している。リビングは日当たりが良く、空調も全館エアコンと床暖房が設置され快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに和室があり、リビングにはソファや椅子を設置いつでもだれでも座ってお話ができるスペースを設けている。また季節に応じて気分転換となるようテーブルの配置換えを図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの家具や椅子などを持参して頂き自由に配置されている。季節に合わせて、壁飾りや好みの飾りを工夫してる。	各居室入り口には名前が大きく表示されている。洗面台と大きなクローゼットが完備されており、利用者が毎日掃除機で清掃することと相まって清潔感溢れる居室となっている。衣装ケースや本棚、家族の写真、お位牌等が持ち込まれ、また、花、自分の作品なども飾り、思い思いに自分の生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の持っている能力や機能を活かし好きな、できることを一緒に行う中で楽しみ、生きがいの持てる日々が送れるよう心掛けている。		